

2019年度第6回理事会 議事録

一般社団法人 日本損害保険代理業協会

日 時：2019年12月09日(火)13:00～17:02

会 場：日本代協会議室

出席者：全理事数 18名、出席理事数 18名、出席監事数 3名(杉本監事、渡辺監事、吉川監事)

会長 金子智明氏は、議長席につき、出席理事数の確認を行い、本理事会は定款第33条に基づき、有効に成立した旨を報告して開会を宣し、直ちに議事に入った。

会長挨拶骨子

・年末のご多忙の中での参集ならびに11/1～2日に開催した第9回日本代協コンベンションのホスト対応に感謝申し上げます。課題であった来賓挨拶時の私話も皆無にでき、コンベンションは成功裡に終えることができました。コンベンションPTメンバーには1年前からの企画立案、講師手配等尽力いただき、感謝申し上げます。次回は節目となる第10回目のコンベンションとなるので、身を引き締めて臨みたい。

< 前回理事会 10/11 以降の業務報告 >

・11/8(金)UCDAアワード2019(於:神田明神ホール)に参加した。当日は約450名が参加し、金融庁総合政策局リスク分析総括課主任統括検査官の長澤敏夫氏による基調講演～「顧客本位の業務運営」の確立・定着に向けた取り組み～が行われた。アワードの特別賞損保部門では三井住友海上の火災保険(地震保険)のパンフレットが受賞した。

・11/16(土)JC保険部会主催の国際保険流通会議 in 東京2019に参加した。明治大学浅井準教授、中小企業庁、東京都、三菱重工業や香港貿易発展局のマネージャー、和歌山県新宮市の代協会員である(株)ベストパートナーの門社長による「保険代理店としての災害地域での活動」の講演、そして損保協会によるサイバーリスク啓発活動の紹介に続き、パネルディスカッションにパネラーとして参加した。テーマは、『保険を取り巻く環境変化と求められる保険販売』～保険販売チャンネルが変化に適応するために今、すべきこと～であった。会全体を通して、「リスク・コミュニケーション」という言葉がキーワードとなった。個人・法人のお客さまとリスクを共有し、対策を一緒に考える「リスク・コミュニケーション」が大切になる。

素晴らしい企画でありながら、年々参加者が減っていることが残念。JCメンバーと連携を深め、盛り上げていく必要がある。

< 事業計画推進関連 >

・「日本代協アカデミー」も課金となる本格稼働が始まった。今一度、保険会社各社から要請のある最低基準検証レベルのコンプラと商品研修だけで高め合いができるのかを考えてみていただきたい。一歩先を行く代協会員として、自社の経営理念に基づき、年間の教育・研修計画を策定し、募集人ごとの理解度把握までエビデンスを残す取組みを当たり前にしていこう。ベストプラクティスも共有しながら、高め合っていこう。本日の資料の中に、「年間学習計画モデルケース」と「コンテンツ推奨学習ガイド」の紹介があるのでしっかり確認いただきたい。

私も「ビジネスマナ - の基本学習」・「何がハラスメントだ」!では理屈はわかるものの、グレーゾーンにおける自身の行動を再度振り返る場面が何度かあった。勘違いの修正もできる。まずは経営者から試していこう。

今年も自然災害による被害が大きかった。この数年は台風などの自然災害は過去と比べて発生数等に変わりはないものの勢力が弱まらずに上陸することが多くなり、被害が甚大化している。温暖化を止める話合いであるCOP25もマドリードで開催中であるが、我々も地球環境保護の取組みや防災・減災の取組みに注力していこう。今年も残り20日、一体感の醸成が感じられる「ふうたくんの旗(47代協の寄書き)」をもってONE TEAMで取組みを進めていこう。

本日も、審議事項が複数ある。闊達な論議を行い、決議をお願いする。

〔審議事項〕

1. 2020年度日本代協事業計画の検討

- ・事務局より、資料に基づき、2020年度日本代協事業計画に対する提言内容について、報告があり、対応案ならびに検討内容について、審議採決の結果、全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・本日の議論を踏まえて、2020年度事業計画（案）を作成する。
- ・事業計画案は来年2月の理事会の審議議案に入れる。
- ・「2020年度日本代協事業計画に対する提言検討案」の第6回理事会審議結果を追記した資料を議事録に添付し、配信する。

【主な内容】

- ・基本的な考え方として、提言の趣旨を出来る限り計画に織り込むようにしている。

〔資料 審1.〕2020年度事業計画：提言への対応案（P.1）参考資料：地震保険料率算出の仕組み（P.2-3）

2. 仲間づくり推進入会キャンペーンの実施

- ・中島組織委員長より、資料に基づいて、仲間づくり推進入会キャンペーンの実施について提案があり、審議・採決の結果、全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・「各代協の年間入会目標の達成」ならびに「会員数の減少歯止・増店化」の起爆剤として、以下の「代協仲間づくり推進入会 Active キャンペーン」を実施する。
11月末時点における「年間入会目標の残数」を入賞基準とする『入会目標達成キャンペーン』を実施する。期間は12/10～2/29。年間目標達成済の代協は1店の入会をもって基準達成とする。
対前年会員数の減店を食い止めた代協を表彰する『年度通算の減店脱却キャンペーン』（年度通算して±0店以上）も併行して行う。期間は12/10～3/31。
上記 および のキャンペーンの双方入賞（W入賞）に対して、賞金を贈呈する。
（入会目標達成や三冠王達成とは別途）
- ・キャンペーンの詳細内容は、12/10（火）にレターを配信する。

【主な説明、意見】

- ・損保各社の販売網戦略による代理店の統廃合の伸展等により、昨年度以上に苦戦を強いられている。年度末に向け、さらに統廃合が進むものと思われる。
- ・業界最新情報に関するセミナー企画と非会員呼び込み、代理店賠償セミナーの開催と保険会社社員・非会員の呼び込み、日本代協アカデミーの情宣、コンサルティングコース受講者・申込者に対する教育委員と組織委員の連携などの手法で、一定期間集中して役割分担と期日管理を行い、取り組みに注力することで流れを変える。
- ・「代協の魅力」等を確認のうえ、地域に合った作戦を練り直して臨んでいただきたい。

〔資料 審2.〕2019年度仲間づくり推進入会Wキャンペーンの実施（席上配付資料P.1）

3. 特別委員会の運営

- ・会長より、特別委員会として設定しているビジョン委員会のあり方について提案があり、審議・

採決の結果、全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・次年度は、運営実態が常設委員会化していたビジョン委員会の設営を一旦休止し、検討テーマごとにメンバー人選・期間設定を行い、研究会やワーキング・グループ等を組成して対応する。
- ・担当理事は置かず、テーマごとに各副会長が担当する。

【主な説明・意見】

- ・本来、ビジョン委員会は特別委員会であるが、実態として常設型委員会と同様、複数の課題について諮問を受け、年度初めの答申の提出で一区切りという期間設定で運営されていた。今後の環境変化においては、検討テーマも多岐にわたり、検討のスピードも求められることから、柔軟に、より機動性を発揮できる形での運営に変更したい。
- ・同時に数本の検討チームが併行することもある。
- ・少人数であるためWEB会議も活用しやすい。小集団形式のスピード重視の運営を行う。
- ・隠れた人材発掘にもつながる。
- ・代理店経営や代協経営に関し、優先順位の高いテーマを取り上げていく。

〔資料 審3.〕委員会規則(P.5-7)

4. 日本代協アカデミー利用者ID数のカウント

- ・石川委員長より、資料に基づき、三冠の1項目ともなっている「日本代協アカデミーの利用者ID数のカウント」について提案があり、審議・採決の結果、全会一致で承認された。本来は報告事項であるが、念押し確認のため審議事項に入れた。

【決定したこと】

- ・入賞基準は、「本登録した利用者のうち、利用料金支払済のID数」をカウントする。
(2020年3月31日時点で利用料金の支払がないID数は、カウントしない。)
- ・進捗は「目指せ、三冠王!」ニュース週報でお知らせする。
- ・年度末のカウントは、2020年3月31日(火)中に利用料金の支払が済んだものについて行う。入金確認が完了する4月3日(金)に集計する。

【主な説明・意見】

- ・三冠の1項目の入賞基準は「本登録のID数の目標達成」とのみ案内していたが、10月から利用料金を課しての本格展開が始まったため、詳細の取り決めを案内する必要がある。
- ・代理店賠償の保険料の郵便振替と同様の仕組みにより、日本代協アカデミー・ネットチャンネルの利用料金収納手続きを進めているが、進捗は思わしくない。

〔資料 審4.〕日本代協アカデミー利用料金支払済ID数(代協別)(P.8)

5. 2020年度第39次PIAS実施内容

- ・事務局より、資料に基づき、2020年度第39次PIASの実施について提案があり、審議・採決の結果、全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・第39次PIASを実施する。

1. 日程：2020年6月12日(金)～6月19日(金) 6泊8日間
2. 訪問先：米国サンフランシスコ
3. 受入先：CPCU サンフランシスコ支部
4. 研修手配・内容：受入責任者は David Blakesley 氏、研修内容はオリエント、座学、
代理店・ブローカー・保険会社訪問
5. 参加費用等：参加費用 = 従来と同額 (298 千円 + PIAS 研修費用 900ドル)
最少催行人数 = 18 名(募集上)
6. 主催旅行社：ケイライントラベル(株) (川崎汽船グループ会社)

【主な説明・意見】

- ・市内視察では、シリコンバレー企業(グーグル・FB 本社・アップル・テスラ等)や UC Berkeley 校の訪問などを織り込む。
- ・研修テーマ：米国の損害保険市場の現状と課題、保険代理店のマーケティング、ブローカーと乗合代理店の視察と対話、リテール保険会社の戦略と専属専業代理店の業務実態
- ・今後の代理店経営の気付きが得られる研修である。
- ・次々年度は節目となる第 40 回だが、制度の継続について論議する必要がある。

[資料 審 5.] 2020 年度第 39 次 P I A S 募集要項 (P.9-10)

[報告事項]

1. 災害被災状況に関する報告

- ・事務局より、台風 15 号、19 号、10/25 大雨等による会員の被災状況について報告があり、共有した。
 - ・長野県代協：事務所 1 階水没 3 会員(給付対象)、工場 40cm 浸水 1 会員
 - ・静岡県代協：事務所床上浸水(給付対象)・車両 5 台水没
 - ・茨城県代協：事務所一部損 1 会員、自宅半損・一部損・車両被害 4 会員
 - ・千葉県代協：事務所一部損 17 会員、自宅一部損 32 会員
自宅一部損 31 会員のうち 15 会員は事務所も自宅も被害、自宅のみ被害は 16 会員。事務所のみ被害は 1 会員、事務所兼自宅の被害は 1 会員。
 - ・栃木県代協：社有車水没 1 会員(車両保険で保険金受取済の報告あり)
下線を付した見舞金給付対象者分は県代協事務局に送金済。コンベンション会場での寄付金や各代協でプールしている義援金に関しては、再確認に対する回答を集計し、年内に予め定めた配分基準に基づき、各代協あて送金する。

[資料 報 1.] 令和元年台風 15 号、台風 19 号および 10 月 25 日の大雨による災害に係る各種損害保険の事故受付件数等 (P.11-12)

2. 事業計画進捗状況にかかる報告

(1) 地区担当理事からの報告

事前提出され、書庫に登載されている事業計画アクションシートへの記載事項以外に以下のコメントがあり、共有された。

- ・三冠獲得に向け、意思結集を図る。

- ・群馬では、サイバー関連のセミナーを損保クラウドの説明と合わせ、NTTコミュニケーションズに対応してもらい、県警と2本立てで企画・実施ができた。
 - ・東関東ブロックセミナーは130名、情報交換会70名、人材育成セミナーは18名の参加で、人材の発掘につながると確信できた。埼玉では明治安田損保の委託先の紹介の動きあり。
 - ・南関東は、三冠王獲得で意思結集した。損保協会の北・南関東支部と各代協でランチミーティングを行い、今後のコラボについて情報交換している。
 - ・滋賀では、立命館大学で無保険車追放の活動を実施し、795台中、4台の無保険車発見(13台が満期間近)し、注意喚起を行った。
 - ・11/29 阪神ブロックコンベンションを開催、式典96名、セミナー200名が参加。近畿財務局田中雄介室長ならびに吉田桂公弁護士に講演いただき、FD原則や態勢整備に関して多くのヒントを得ることができた。
- 近畿、阪神も三冠獲得で意思結集した。
- ・三冠獲得への意思結集ならびに日本代協アカデミー創設の背景の浸透に再度取り組む。
 - ・「理事通信11」を発刊した。また、日本代協の「現状と課題」を読むダイジェスト版(33ページもの)も作成した。代協の魅力伝えていくため、理事、役員に活用いただきたい。
 - ・仲間づくり推進で、減店数をプラスにしようという気概が不足している。また日本代協アカデミーの利活用も不足している。改めて背景を説き、利活用の習慣化を図る。悔いを残さない取組みを展開し、年度末を乗り切ろうと意思結集している。

〔地区別委員会別資料〕〔席上配付資料〕各ブロック別事業計画アクションシート

(2) 委員会担当理事からの報告

企画環境委員会

木下委員長から、資料に基づき、諮問・推進事項の推進結果、現状の課題と今後の対応策について報告があり、共有された。

【主な内容】

- ・代理店賠償の審査会に参加した。
賠償金事案ではなく、保険金支払案件での求償が初めて出てきた。大学教授・弁護士等の有識者とポイントとなる論点や交渉の手順について、深掘りした。
- ・共通化・標準化の提言は、95項目を集めた。中身を確認、整理して年度内に提言をとりまとめ、損保協会に提出したい。

〔地域別委員会別資料〕企画環境委員会報告シート(P.19)

教育委員会

石川委員長から、資料に基づき、諮問・推進事項の推進結果、現状の課題と今後の対応策について報告があり、共有された。

【主な内容】

- ・損害保険大学課程の運営・検証・改善
- ・合同運営会議において、トータルプランナーの将来像について論議した。認知策・周知策の一環として、要請し続けてきた「TPバッジ」が漸く完成し、12/6に認定授与式の場で申込みが始まった。(単価2,850円)写真入りカード型認定証については、現在、提供の仕組みを詰めている最中である。

・日本代協アカデミーの展開

- ・10月に課金を行い、本格展開が始まったが、登録ID数は伸びていない。利用料金支払会員数とID数(代協別)を確認いただきたい。改めて、創設の背景の浸透が必要であるが、「本来の利用の仕方」について情宣を徹底していく。一步先を行く代協会員のために、階層別「コンテンツ推奨学習ガイド」、階層別「学習モデルケース」を策定した。今一度、保険会社各社から要請のある最低基準検証レベルのコンプラと商品研修だけで高め合うことが可能なのかを考えてもらいたい。自社の経営理念に基づき、年間の教育・研修計画を策定し、募集人ごとの理解度把握までエビデンスを残す取組みを当たり前に行っていきたい。

・ベストプラクティス事例の収集と展開(代理店の収益向上・体制整備強化に資する好取組事例の収集と展開)

- ・BCP、高齢者・障がい者対応に続き、ハッピーリタイアメントプランを計画している。取材訪問代理店の選定については、工夫が必要。スピード感をもって対応する。また、iMovieを活用した好取組事例の収録方法のスキルアップなどについてもPTを中心に進める。

〔地域別委員会別資料〕教育委員会報告シート(P.20)

〔地域別委員会別資料〕日本代協アカデミーネットチャンネル簡単利用ガイド(P.21-22)

〔資料 報12.〕日本代協アカデミーeラーニング形式の学習でできること(P.66-77)

組織委員会

中島委員長から、資料に基づき、諮問・推進事項の推進結果、現状の課題と今後の対応策について報告があり、共有された。

【主な内容】

・情報と熱が伝わる組織づくりの推進

- ・各ブロックからの報告を読み込んでいただきたい。各組織委員が情報を収集し、きちんと考えて報告を作成できるようになってきた。好取組事例や失敗事例、悩みを共有して情報が伝わる組織づくりを進める。

・仲間づくり推進

- ・審議事項で決議された「代協仲間づくり推進入会Activeキャンペーン」を盛り立てる。「明るく楽しく元気に、仕事は本気で誠実に!!」に取り組む。
- ・イ.業界最新情報に関するセミナー企画と非会員呼び込み、ロ.代理店賠償セミナーの開催と保険会社社員・非会員の呼び込み、ハ.日本代協アカデミーの情宣、ニ.コンサルティングコース受講者・申込者に対する教育委員と組織委員の連携などの手法で減店に歯止めをかけ、巻き返しを図る。

〔地域別委員会別資料〕組織委員会報告シート(P.23-33)

CSR委員会

小田島委員長から、資料に基づき、諮問・推進事項の推進結果、現状の課題と今後の対応策について報告があり、共有された。

【主な内容】

- ・「ぼうさい探検隊」は、178団体・384マップ(去年は122団体・274マップ)と大幅増と

なった。3冠の1項目としては37代協が目標を達成した。本日12/9(月)マップコンクールの審査会を開催しており、入賞作品の選定審査が行われている。

表彰式は1月25日(土)に開催される。そこで金子会長より「日本代協賞」を授与する。また、代協関連で参加した児童には、日本代協特製ノベルティ(ふうたのマグネット)を提供する。

- ・サイバーセキュリティ対策の啓発活動については、警察の協力のもと進められているが、警察の協力が得られない代協では、IPA(独立行政法人 情報処理推進機構)やシステムベンダー(マカフィ、NTTコミュニケーションズなど)の協力を得て、開催や企画が進んでいる。
- ・「防災・減災の具体的な取組みの検討」については、各地で災害が相次ぐ中、自身が体験した災害対応を通し、また災害テーマのセミナーを受講しての気づきから、すぐに取り組みができそうな事を検討する時間を設け、directで共有した。今後の委員会で話し合う。

[地区別委員会別資料] CSR委員会報告シート(P.34)

広報委員会からの報告

野原委員長から、資料に基づき、諮問・推進事項の推進結果、現状の課題と今後の対応策について報告があり、共有された。

【主な内容】

- ・PR企画の制作状況
 - ・今年の企画である保険用語解説をリレー形式でつなぎながら各地域の色を出していく47代協の動画を収録し終えて、現在、編集中である。1月1日から週2~3代協の動画を順次リリースする予定である。同時リリースではなく、順次リリースをする理由は昨年同様で
 - イ.YouTubeの視聴履歴や、チャンネル登録に合わせておすすめ動画が表示される仕組みを利用する方が視聴数は多くなる
 - ロ.継続的ネットバイラル(インターネット上の口コミ拡散)の発生が期待できる。
 - ・「ふうた旗(47代協の寄書き記入)」で一体感の醸成ができた。
 - ・オプションのテレビ番組も収録済である。
 - イ.「ホリプレゼンツ求人 任三郎」:10/2収録、11/1放映済(Youtubeチャンネルでも視聴可)
 - ロ.「燃える男 中畑清の1・2・3絶好調」:12/5収録済、1/4放映予定。
 - ・「代協の魅力を伝える動画」の制作は、イメージ作りに苦労しているが、一步一步進めている。
- ・日本代協ホームページのリニューアル
 - ・コンテンツの確認やデザイン、サウンドロゴの決定を終え、大枠では構築できているが、デモ版の確認において、見易さや内容について修正が必要な箇所が見つかった。また、タブレット・スマホの動作チェックにおいても気になる箇所が見つかったため、事務局担当者が懸命の修正対応を続けている。現状は、固定ページは完成しているものの、新着情報等の可動ページものに不備がある。改修状況をみて、リリース時期をお知らせする。

〔地域別委員会別資料〕 広報委員会報告シート（P.36）

ビジョン委員会

高橋委員長から、資料に基づき、諮問・推進事項の推進結果、現状の課題と今後の対応策について報告があり、共有された。

【主な内容】

- ・代協正会員、一般会員、賛助会員資格のあり方の検討
- ・「会員資格・会費の考え方」ガイド（案）を作成しているので、完成、提供まで今しばらく時間をいただく。

概要として、留意点である運営の手順を最初に示している。

- ・年次事業計画の策定
- ・予算化（必要経費の算出と収入額の予測）
- ・計画実現性の検証

イ. 予定通り実行、ロ. 内容を変更（規模縮小・中止）して実行

ハ. 繰越金を充当して実行

- ・会費体系等の見直しを検討（会費収入での運営が理想）

会員資格（正会員、一般会員、賛助会員）の考え方、会費の考え方（正、一般、賛助）正会員会費（加算方式、区分方式）、正会員の募集従事者数別の構成比一覧そして会員数規模別の会費シミュレーションシート（エクセル版）も準備している他、総会決議の手順や会員資格における課題も記載して提供する。

会費シミュレーションシートは、運営規模 300 万円、1000 万円、3000 万円くらいの規模感をイメージしている。

- ・大規模災害時の鑑定補助制度創設に向けた検討
- ・大規模災害が常態化する恐れもあり、保険会社はドローンや AI を使った鑑定を行うなど、環境が大きく変化した。鑑定人も危機感を持っている。当面は損保協会に対し、共通化・標準化の提言と共に提案する。
- ・保険の基礎 CD 販売
- ・保険の基礎の CD（@1,000 円）の販売を開始した。辞書代わりに活用できるものなので、活用いただきたい。

〔地域別委員会別資料〕 ビジョン委員会報告シート（P.37-42）

3. 前回理事会（2019.10.11 開催）以降の主な業務報告

（1）第 9 回日本代協コンベンション実施報告及び 2020 年度開催概要

- ・事務局より、資料に基づき、第 9 回コンベンション実施報告及び 2020 年度開催概要について報告があり、確認、共有された。

【主な内容】

- ・“代協会員が集い・語らう場”として、基調講演 412 名、分科会 384 名、業界関係者を交えた情報交換会 519 名と多くの参加者を集め、開催した。全体としては高い評価を得ることができ、所定の目的を達成したと考える。

運営面では、第二部の懇親会を、自然災害で被災されたお客さま等へ配慮し、早期の保険金支払いに向けて損保業界が一体となって取り組むための意思結集・情報交換の場とした。

- ・前回までの課題であった「来賓挨拶時の私語等」は是正された。
 - ・主な収支は席上配付資料 P.4 掲載のとおり。
 - ・主なアンケート結果
感想:改めて組織力を感じた。元気をもらえた。大変良かったので次回から若手を参加させたい。
功労者表彰のMCが感動的だった。
要望:30分休憩は長い。女性が参加しやすい環境づくりを。情報交換会は着席形式にできないか。
 - ・次回の運営面での検討視点
 - ・会場内の座席間隔を広げる。会員懇談会でmenti等の匿名リアルタイムアンケート集計を利用する。
 - ・着席形式の検討、会場変更の検討(2021年度以降)
 - ・予算の見直し、会費の検討
 - ・2019年度第9回日本代協コンベンションは以下の要領で開催する予定である。

11月6日(金) 13:00~17:30	式典・会員懇談会・基調講演	グランドニコ-東京台場
18:00~20:00	懇親会	同上
11月7日(土) 10:00~12:00	分科会	損保会館・ホテルジュラク

 ご当地PRは、阪神ブロックが担当
- 〔資料 報2.〕 第9回コンベンション実施報告及び2020年度開催概要(P.13-14)
第9回日本代協コンベンション実施報告書(席上配付資料P.2-9)

(2) 正会員増強運動 11月末状況のご報告

- ・事務局より、資料に基づき、11月末仲間づくり推進の状況について報告があり、確認、共有された。

【主な内容】

- ・11月末正会員数は、11,909店(前年度末12,145店から236店減少、入会218店、退会454店[うち廃業・合併等の理由による退会は305店と全退会者の67%を占めている])。
- ・換算組織率は全国で47.3%(11,909/25,202店)、代協別では、京都80.3%、高知78.6%、香川77.8%、鳥取71.6%、滋賀71.2%、徳島70.2%、岡山70.1%と7代協が組織率70%超。
- ・代申社別では、TN 84店、SJK 76店、MS 27店、AD 16店、AIG 14店と二桁減店である。
- ・京都・奈良・大阪・岡山・鳥取・佐賀の6代協が年間入会目標を達成している。
- ・連クォーター稼働の第2ステージ目標(12月末増店目標の60%以上)達成は、上記6代協の他に、やまがた、香川、福岡、熊本、沖縄。

〔資料 報3.〕 仲間づくり推進 11月末(1.代協別、2.代申社別)(P.15-16)

(3) 日本代協アカデミーの展開

- ・事務局より、資料に基づき、12/6現在の日本代協アカデミーID登録状況について報告があり、確認、共有された。
- ・今一度、保険会社各社から要請のある最低基準検証レベルのコンプラと商品研修だけで高め合うことが可能なのかを考えてもらう必要がある。自社の経営理念に基づき、年間の教育・研修計画を策定し、募集人ごとの理解度把握までエビデンスを残す取組みを当たり前にしていくことが重要である。
- ・一歩先を行く代協会員のために、「年間学習計画モデルケース」と「コンテンツ推奨学習ガイド」を作成したので、活用いただきたい。

〔資料 審 4.〕 日本代協アカデミー利用料金支払済 ID 数 (代協別)(P.8)

(4) 損害保険大学課程

- ・事務局より、資料に基づき、「損保トータルプランナー」の認定状況等および「コンサルティングコース受講申込状況」ならびに「損害保険トータルプランナー認定授与式」(12/6開催)について報告があり、確認、共有された。

【主な内容】

損害保険トータルプランナーの認定状況等

・10月末時点	損害保険トータルプランナー	15,889名(+19名)
	認定有効者数	14,140名(8名)
	代理店検索機能登録	3,960店(+6店)
	損害保険プランナー	84,562名(+84名)
	有効認定者数	41,331名(112名)
	ゴールドカード保有者	6,595名(+18名)

〔資料 報 4.〕 1. 損保大学課程各コースの認定状況等 (P.17-18)

コンサルティングコース受講勸奨

- ・受講申込受付期間：2019年12月1日～2020年2月14日
- ・12/1から申込システムを稼働させている。受講料は69,980円と値下げ済。
- ・業務品質の指標となる「代理店内の認定者実数・認定者割合」の拡大を働きかけ、各代協の早期目標達成へ向け、行動計画と役割分担の確認をお願いする。

〔資料 報 4.〕 2. 2020年4月開講コンサルティングコース受講申込状況日報(P.19)

「損害保険トータルプランナー認定授与式」準備状況

- ・今年度は12月6日(金)15時～19時、イイノホールにおいて開催された。
- ・参加者：新規トータルプランナー170名、金融庁横尾保険課長、各消費者団体役員、金杉協会長、金子日本代協会長、損保協会岩崎専務理事が参加
- ・特別記念セミナー：森・浜田松本法律事務所 吉田和央弁護士
- ・日本代協からは会長、在京の副会長、教育委員長等も参加し、事務局も運営スタッフとして参加した。

〔資料 報 4.〕 3. 2019年トータルプランナー認定授与式の概要 (P.20-21)

(5) 2019年度「目指せ、三冠王」ニュース

- ・事務局より、「目指せ、三冠王！」ニュースについて報告があり、共有された。

【主な内容】

- ・2019年度の事業計画の完遂を目指して、「目指せ、三冠王！」ニュース週報配信を行う。

〔資料 報 5.〕 「目指せ、三冠王！」ニュース (最新版を席上配付)

(6) 2019年度第2回活力研 開催概要

- ・事務局より、2019年度第2回活力研の開催概要について報告があり、共有された。

【主な内容】

- ・2020年2月18日(火)15:00～17:30 日本代協会議室にて開催予定である。
- ・出席予定者：あいおいニッセイ同和、損保ジャパン日本興亜、東京海上日動、三井住友海

上の営業推進担当部長及び日本代協正副会長、企画環境・ビジョン委員長、事務局。

(7) 日本代協ニュース新年号記事

・事務局より、資料に基づき、日本代協ニュース新年号に掲載する特集記事の内容について、報告があり、共有された。

【主な内容】

・2020年1月初旬に配布する「日本代協ニュース新年号(タブロイド版)」の特別企画として「コンベンションの4つの分科会のゼミ概要」について掲載し、全会員に配送する。

(8) 第8回国際保険流通会議 in 東京 2019 概要

・事務局より、資料に基づき、第8回国際保険流通会議 in 東京 2019 の開催概要について報告があり、共有された。

【主な内容】

・11月16日(土)10時30分～16時40分 於:日比谷コンベンションホールにて開催された。明治大学浅井準教授、中小企業庁事業環境部の経営安定対策室長、三菱重工業や香港貿易発展局のマネージャーの講演の後、パネルディスカッションに金子会長が登壇した。

(コーディネーターは、奥住 JC 保険部会長、パネラーは、損保協会、日本代協金子会長、ブローカー協会 平賀理事長、RM&C 協会 松本副理事長で、テーマは、『保険を取り巻く環境変化と求められる保険販売』～保険販売チャネルが変化に適應するために今、すべきこと～

[資料 報6.] 第8回国際保険流通会議 in 東京 2019 (P.23-24)

(9) 「代理店経営サポートデスク」相談対応状況

・事務局より、資料に基づき、代理店経営サポートデスクの相談対応状況ならびにそれに基づく日本代協アカデミーの情報提供コンテンツの「こちら代理店経営相談室！」の収録状況について報告があり、共有された。

労務管理、今後の代理店経営、BCPの策定、合併と出向、セミナー開催、体制整備などの相談が入っている。11月末時点で20件の相談があり、順次対応している。

[資料 報7.] 1. 「代理店経営サポートデスク」相談状況 (P.25-26)

2. 「こちら代理店経営相談室！」収録状況 (P.27)

(10) 「第6回鑑定人フォーラム」の開催

・事務局より、資料に基づき、第6回鑑定人フォーラムの概要について報告があり、共有された。

【主な内容】

・11月8日(金)～9日(土) 於: 御茶の水ソラシティカンファレンスセンター

「顧客本位の業務運営」をテーマに取り上げ、日本代協アドバイザーの錦野裕宗弁護士の講演に続き、中島克海(日本代協理事)が講演。来場の270名を惹きつけた。

[資料 報11.] 「第6回鑑定人フォーラム」次第、1125 新日本掲載記事 (P.59-60)

4. その他

(1) 業法改正対応に関する最新情報

- ・関東財務局のヒアリングの進捗状況：当初予定の100店に対して、代協ルートの推薦もあり、120店にアンケートを配信し、そのうち60店に臨店する。12月中に30店臨店を終了する予定で、1月末に残りの30店に行く予定と遅れ気味である。1月訪問予定先にはまだアポイントも入れていない。対象は、ディーラー、整備工場、不動産、流通業等の兼業代理店である。3/10の会長懇談会の際に、関東財務局の佐藤4課長に解説いただく予定である。
- ・関東財務局は、家財を対象としている少額短期保険会社の代手率の高さに関心を持っているようである。健全な経営確保の観点、顧客本位の観点から見直しが必要ではないかと考え、チェックを入れていると思われる。
- ・インターネット関連の金融仲介業者に金融ブローカー的な価値提供を認めてほしいというプラットフォームの動きが加速しており、金融審議会で討議されている。業態ごとに分かれた登録制度の一本化(シングルライセンス)を目指しており、商品供給元の金融機関からの個別指導を義務付ける仕組みを外し、仲介業者の負担を減らそうというものである。代理店登録をせずに保険を取り扱う業者が出てくる可能性がある。金融審議会で検討が続いているが、利用者の利便性は上がるが、規制のバーを下げることにより、利用者保護などの課題も残ると考えられる。
銀行、証券、生保がメインで、損保はネットでも取り扱えるような限られた種目になると考えられるが、手数料開示の問題の再燃につながる恐れもあるため、関連部署と連携強化する。
- ・12/5(木)E保険プランニングの商号で代理店業務を展開していた(株)T・F・K(現在は(株)A Iコーポレーション)は東京地裁に民事再生法の適用を申請した。負債は196億円。今後は(株)E保険プランニングに契約移管し、事業を継続する。新しいスポンサーは(株)光通信グループの(株)N F Cホールディングスに決定している。
- ・C O P 2 5 が開催されているが、日本国内のS D G s の推進に関しては、2019年6月の第7回推進本部会合で、『拡大版SDGsアクションプラン2019』決定し、取組みをしているとのことだが、海外の保険会社は火力発電所の火災保険の引き受けをしない、出資もしないなど一歩先を行く取組みを展開している。やっていること、できることを洗い直していく必要がある。
- ・11/6(水)金融庁のホームページに「顧客本位の業務運営に関する情報」が掲載された。今後は、自主的なK P I と認められるものと一緒に提出されたF D 宣言しか公表とは認められないことになる。スローガンではなく実態を求める当局の姿勢の表れだ。

- [資料 報 8.] 1.1106 保毎記事ならびに第25回市場W・G事務局資料の抜粋(P.28-31)
2.1011 業界団体との意見交換会の主な論点(P.32-34)
3.1011 金融庁と業界団体との意見交換会の主な論点(P.35)

(2) その他

- ・事務局から、添付の資料の概要説明があり、共有された。

- [資料 9.] 1.1118 新日本 日本代協コンベンション(P.36)
[資料 9.] 2.1026 新日本 北村関東財務局長(P.37)
[資料 9.] 3.1108 保毎 火災保険参考純率改定(P.38)
[資料 9.] 4.1117 日経 0401 民法改定の影響(P.39)
[資料 9.] 5.1120 日経 損保災害準備金半減(P.40)
[資料 9.] 6.1111 新日本 東京海上のA I 保険(P.41)
[資料 9.] 7.1017 他保毎 東京代協の取組み(P.42)
[資料 9.] 8.1115 保毎 福岡県代協北島会長(P.43)

- [資料 9.] 9.1108 保毎 千葉県代協船橋保険事務所 (P.44)
- [資料 9.] 10.1120 保毎 熊本県代協中村会長 (P.45)
- [資料 9.] 11.1129 阪神ブロックコンベンション等 (P.46-49)
- [資料 10.] 1. 「損害保険」「生命保険」の基礎 CD の販売 (P.50-52)
- [資料 10.] 2. ふうたのワンポイントレッスン patr4vol.7-vol.8 (P.53-56)
- [資料 10.] 3. みんなのほけん検定ちらし (P.57-58)
- [資料 11.] 2. JCM 買取車両上位 10 台、10 月末実績報告 (P.61-63)
- [資料 11.] 3.1121 保毎 長崎県代協甲山会長 (P.64)
- [資料 11.] 4.1126 保毎 佐賀県代協吉岡会長 (P.65)
- [資料 12.] 日本代協アカデミー e ラーニング形式の学習でできること (P.66-77)

〔監事講評〕

杉本監事から以下の通り監事講評があった。

- ・スムーズな運営で、適正に議事運営がなされたものと判断する。
- ・いくつかコメントさせていただく。
 1. コンベンション対応では各役員の方のホスト対応、本当にお疲れ様。会の基本精神である「集い、語らう」場として、年々内容が充実してきているという印象である。
情報交換会時の諸課題も改善でき、情報交換の役割を果たしていた。一方で、細かい点であるが工夫が必要なこともあった。
 - ・ご当地 P R では各会長が P R を行っていたが、聴き取りづらかった。スクリーン上映するなど工夫が必要である。
 - ・被災会員に対する募金集めに関しては、募金者の名前を呼びあげる等ではなく、募金箱を出口付近に設置する等が場にふさわしいと思う。
 2. 事業計画への提言への対応策検討において、大変興味深いテーマである「テレワーク推進上の課題の検討」が取り上げられていた。自社では、オリンピック・パラリンピック期間中の仕事について、通勤や移動の問題もあり、テレワークを検討している。
国や政府からも推進されており、将来的には介護・育児休暇による人材確保や緊急時の B C P 対応、ワークライフバランスの実現などにもメリットがあるが、一方で労働時間管理や情報セキュリティ確保など課題も確認できている。
コンベンションのテーマが「時代の変化に対応し、持続可能な代理店経営を考える」ということで、将来的に紙媒体が主体である保険業界でも対象にできる業務があるのかなど、業務の棚卸の段階からチェックし、検討してほしい。最初から完璧を求めるのではなく、できることから実施していくということによりよいと考える。他の提言対応と合わせて検討を進めてほしい。
- ・今年も残り 1 か月を切った。周囲ではインフルエンザの流行が始まっているが、来年も元気に顔合わせできるよう祈念する。

以上

< 諸会議開催予定 >

2019年12月～2020年09月のスケジュール (案)

損保会館の予約状況ならびに会議体のあり方の改定状況によっては、日程の変更がありますので、予めご了承ください。

2019年度	12月9日(月)	10:30～12:00 13:00～17:00	正副会長打合せ 第6回理事会 テーマ:通常議題	日本代協 会議室
	12月10日(火)	11:00～17:00 17:00～18:00 18:10～19:30	第2回ブロック長懇談会 セミナー 同上懇親会(有志・会費制)	損保会館 大会議室 会場 損保会館3F 食堂
	2月7日(金)	9:15～10:15 10:30～12:00 13:00～17:30 18:00～	正副会長打合せ 財務委員会 第7回理事会 テーマ:事業計画案、他通常議題 損保協会との懇談会(損保協会主催)(正副会長と3理事)	日本代協 会議室 会場 未定
	2月18日(火)	15:00～17:30 17:45～20:00	活力研(正副会長、企画環境・ビジョン委員長) 懇親会	日本代協 会議室 懇親会あり 会場 未定
	3月9日(月)	10:30～12:00 13:00～17:00	正副会長打合せ 第8回理事会	日本代協 会議室
	3月10日(火)	10:00～12:00 13:00～18:00 18:10～19:30	臨時総会 政連通常代議員会・第2回全国会長懇談会 同上懇談会(有志・立食・会費制を予定)	損保会館 2F(大会議室) " 会場 損保会館3F 食堂
2020年度	5月8日(金)	10:30～12:00 13:00～17:00	正副会長打ち合わせ 第1回理事会 テーマ:通常課題	日本代協 会議室
	6月15日(月)	10:30～12:00 13:00～17:00	正副会長打合せ 理事・理事候補者情報交換	日本代協 会議室
	6月16日(火)	10:00～ 11:30～12:00 13:00～14:00 14:00～17:00 17:15～18:15 18:30～19:30	来賓ご挨拶 / 通常総会 新体制理事会(2020年度第2回理事会) 政治連盟臨時代議員会 第1回全国会長懇談会 セミナー(予定) 同上懇談会(有志・立食・会費制を予定)	損保会館2F(大会議室) 確定 損保会館(3F)
	6月17日(水)	9:30～16:00 9:30～12:30	新任会長オリエンテーション 新体制理事打合せ	日本代協会議室 有楽町リファレンス205会議室
	7月3日(金)	15:30～17:30 17:45～20:00	業界紙懇談会(会長、広報担当副会長、広報委員長) 懇親会	日本代協 会議室 懇親会あり 会場 未定
	7月8日(水)	10:30～18:00	新体制理事合宿	日本代協会議室
	7月9日(木)	9:30～12:00 16:00～17:30 17:45～20:00	新体制理事合宿 損保7社懇談会(正副会長、教育・組織委員長) 懇親会	日本代協 会議室 会場 未定
	7月10日(金)	10:30～12:00 13:00～17:00 17:00～18:00	正副会長打ち合わせ 第3回理事会 テーマ:通常議題 セミナー	日本代協 会議室 (懇親会 無)
	7月17日(金)	15:00～17:30 17:45～20:00	活力研(正副会長、企画環境委員長) 懇親会	日本代協 会議室 懇親会あり 会場 未定
	9月14日(月)	10:30～12:00 13:00～17:00	正副会長打合せ 第4回理事会 テーマ:通常課題	日本代協 会議室
	9月15日(火)	11:00～17:00 17:00～18:00 18:15～19:30	第1回ブロック長懇談会 情報提供:好取組事例の紹介 同上懇親会(有志・会費制)	損保会館 2F(大会議室) " 会場 損保会館3F 食堂

以上をもって、議長は理事会の終了を宣し、午後5時2分閉会した。
上記理事会議事録を作成し、議長並びに議事録署名人が記名押印する。

2019年12月10日

議長 会長 金子 智明 印

議事録署名人 監事 杉本 恭三 印

議事録署名人 監事 渡辺 眞一 印

議事録署名人 監事 吉川 正幸 印